

## 震災をきっかけに、福島県で広がる「あそび場」づくり 誕生から1年「ペップキッズこおりやま」の新たな役割 ～「外あそびの代わり」から地域に必須の「子育てインフラ」へ～

ボーンランドは、東日本大震災で被災した福島県郡山市において、昨年12月にオープンした市の大型室内子育て支援施設「ペップキッズこおりやま」のあそび環境をプロデュースしました。子どもたちへ思い切り体を動かして楽しむことのできる環境を提供したこの施設は県内外で大きな反響を呼び、福島県内で現在までに35もの室内あそび場が設置されるきっかけとなりました。原発事故の影響で外出さえままならず、体を動かすことができない子どもの成長への危機感から生まれたこの施設ですが、オープンからまもなく1年が経過する現在では、外遊びの代替としてだけでなく、地域の子育てに必須の場として支持を受けています。



**ペップキッズこおりやま**  
竣工：2011年12月  
あそび場の広さ：1,650㎡  
場所：福島県郡山市



ボーンランドでは「本来なら外で体験するあそびをすべて屋内でできること」を目標に、「ペップキッズこおりやま」のあそび環境をプロデュース。全国に展開する親子の室内あそび場「キドキド」のノウハウを活用しつつ、泥んこになって遊べる巨大な砂場や乗り物遊びのサーキット、思い切り走れるランニングトラックなど、この施設だけの多彩な仕掛けを随所に盛り込みました。昨年12月23日のオープン以来、10月末までの10ヶ月間で延べ31万人以上が来場。一時は入場規制を行うほど、多くの親子連れが施設を訪れています。利用者からは、「子どもの寝つきがよくなった」「ご飯をちゃんと食べるようになった」「家で暴れなくなった」といった声が聞かれ、遊びによって生活のリズムを取り戻すことができた子どもたちの様子が窺えます。

原発事故対策としてオープンした「ペップキッズこおりやま」ですが、現在では子どもの体遊びを保障する場のみならず、親子が安全に集える場所、また親同士の情報交換の場としても機能しており、子育てに必須の「インフラ」として支持されています。「『ペップキッズ』以外に、幼稚園が終わったあと安心できる居場所がない」という利用者の声からは、被災地特有のものではない、普遍的な親の悩みが垣間見えます。

放射線の問題がない地域でも、自由な公園利用の制限や治安面での不安から、気軽に子どもが集まり、体を動かして遊ぶことのできる環境は減少しています。原発事故で「子どもが外に出ることすらできない」という緊急事態から生まれた「ペップキッズこおりやま」は、今や多くの自治体関係者が見学に訪れる、全国的な子育て支援の新しいモデルとしても存在感を高めています。

ポーネルンドでは「ベップキッズこおりやま」の完成後も福島県内で4箇所のあそび場をプロデュースしました。今後もさらに当社プロデュースのあそび場は増える予定です。市が運営する施設だけでなく、地元企業が社会貢献活動の一環として、「あそび場」を設置する動きも出ています。

#### ■ 本宮市「スマイルキッズパーク」



竣工：2012年7月  
あそび場の広さ：400㎡  
場所：福島県本宮市

本宮市の保健センターを室内あそび場に変更し、親子で体を動かして遊べる場を提供。ポーネルンドは、あそび環境をプロデュースしたほか、スタッフの教育、運営指導も行っています。

#### ■ 郡山市「やっこいキッズ」



竣工：2012年7月  
あそび場の広さ：66㎡  
場所：福島県郡山市

福島県の建築資材会社トーモク(株)が、郡山市に持つ自社研修センターの一部を当社プロデュースのあそび場としてリニューアルし、無料開放している施設です。取締役の佐藤正志氏は、「あそび場の提供を通し、地域に貢献したい」と話しています。

#### ■ 福島市「さんどパーク」



竣工：2012年9月  
あそび場の広さ：424㎡  
場所：福島県福島市

原発事故の影響により屋外での遊びを控える子どもたちのため、市内中心部にある市民会館1階に誕生した施設です。トランポリンやボールプール、ままごとコーナーなどを設置しました。不安な気持ちを抱える親を支援する役割も果たしています。

#### ■ 玉川村（福島空港内）「わくわくらんど たまかわ」



竣工：2012年10月  
あそび場の広さ：232㎡  
場所：福島県玉川村

玉川村が運営するあそび場で、福島空港が場所を提供しています。福島空港ビル株式会社 取締役業務部長の伊藤進氏は、「空港に多くの親子が集まることで、震災後に元気を失っている地域全体の活性化にもつながる」とこの取り組みを評価しています。

#### ポーネルンドとは

ポーネルンドは、あそびを通して子どもの健全な成長に寄与するため1981年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国89カ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万カ所まで拡大しています。また、2004年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる室内あそび場「キドキド」事業をスタート。現在全国15箇所、年間141万人の親子が訪れています。

#### 【発行元・本件に関するお問合せ】

株式会社ポーネルンド 広報室 担当：村上、讃井

TEL：03-5785-0860 FAX：03-5785-0861

E-mail：y-murakami@bornelund.co.jp